

平成26年 千葉県鉱工業指数年報の概況 (平成22年基準)

短期経済観測の資料とするため、毎月「千葉県鉱工業指数月報」を発行し、鉱工業の生産・出荷・在庫・在庫率指数を公表しております。この度、年間補正及び季節指数の改定を行った上で、平成26年の1年間の動向を年報として公表しましたので紹介します。

統計課 工業班
電話 043-223-2227

概況

— 生産・出荷・在庫・在庫率ともに上昇 —

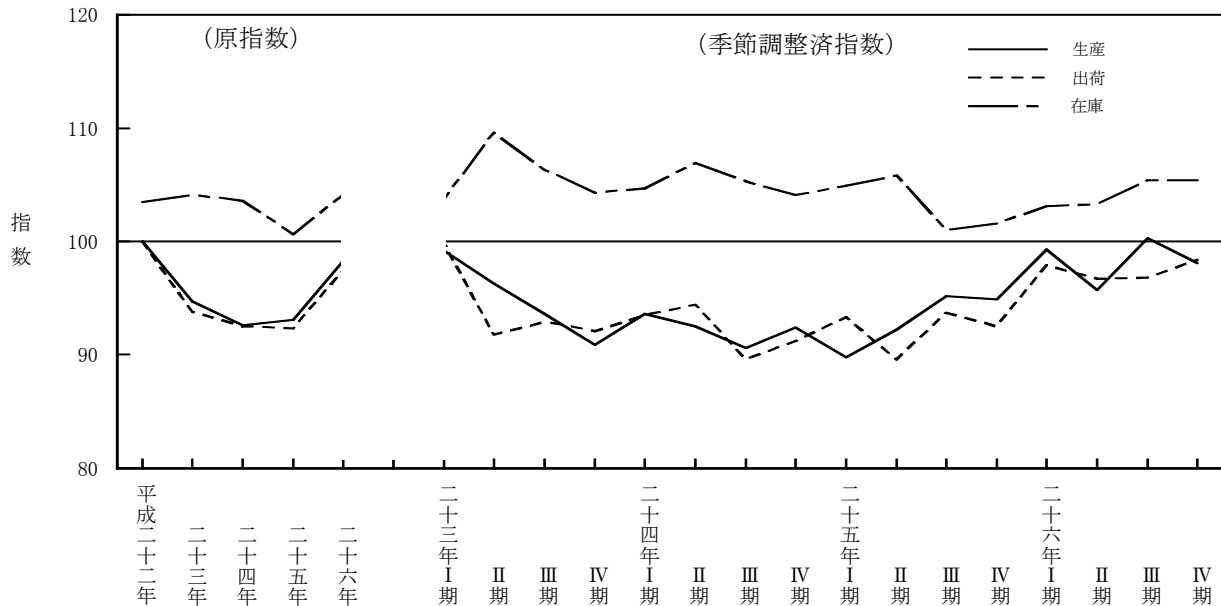
平成26年の千葉県鉱工業指数をみると、生産指数は98.3で前年比5.6%と2年連続の上昇、出荷指数は97.4で同5.5%と4年ぶりの上昇、在庫指数は104.1で同3.5%と3年ぶりの上昇、在庫率指数は118.1で同5.2%と3年ぶりの上昇となりました。

平成26年を四半期別にみると、生産指数は、Ⅰ期・Ⅲ期が上昇、Ⅱ期・Ⅳ期が低下となりました。出荷指数は、Ⅰ期・Ⅲ期・Ⅳ期が上昇、Ⅱ期が低下となりました。在庫指数は、Ⅰ期からⅢ期が上昇、Ⅳ期は横ばいとなりました。在庫率指数は、Ⅰ期が低下、Ⅱ期からⅣ期が上昇となりました。

平成26年の生産と在庫の関係を在庫局面でみると、Ⅰ期・Ⅲ期は「在庫積み増し局面」に位置し、Ⅱ期・Ⅳ期は「在庫調整局面」に位置しました。

(第1図・第2図・第1表参照)

第1図 千葉県鉱工業指数の推移 (平成22年=100.0)

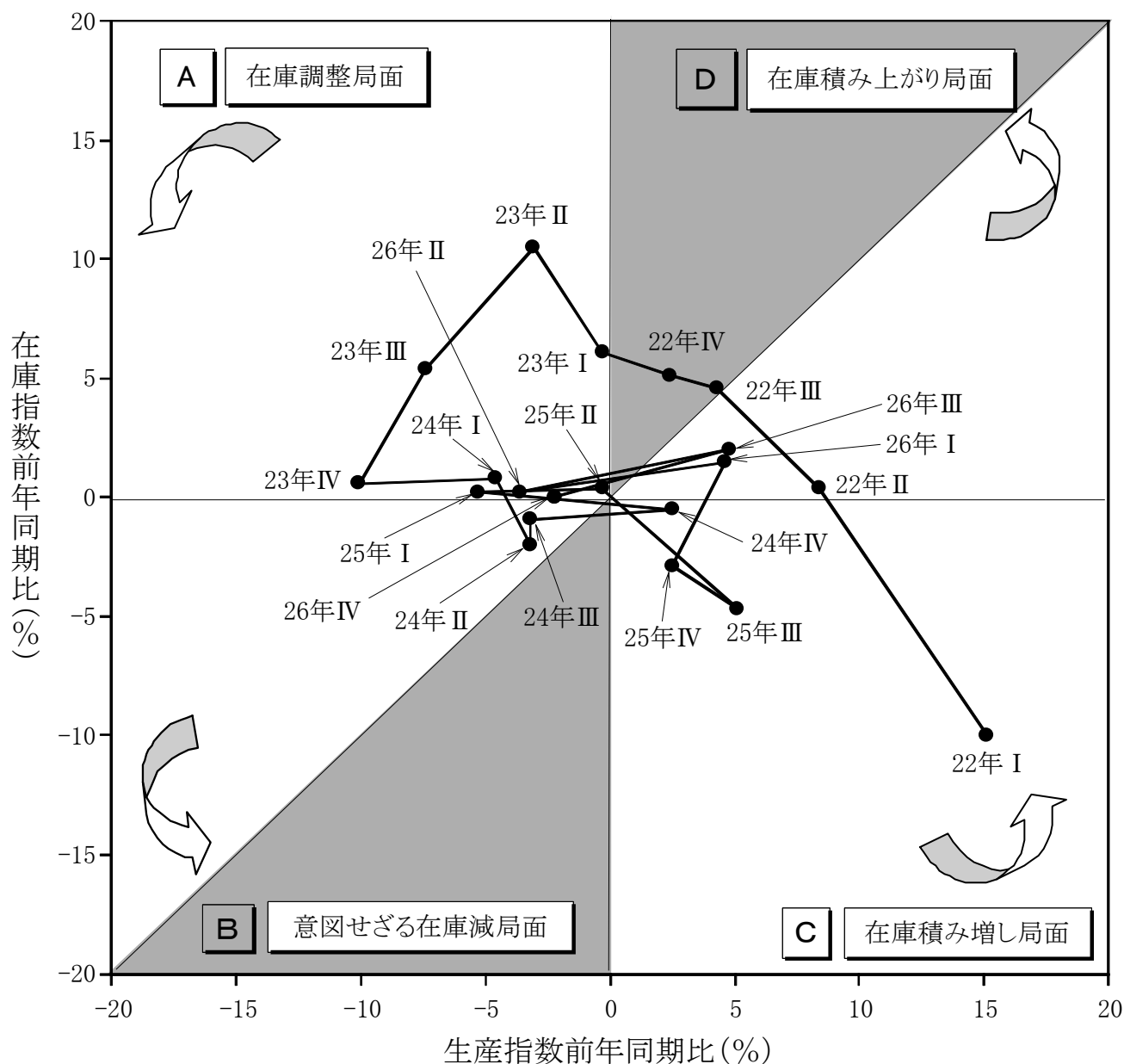


第1表 千葉県鉱工業指数及び前年比・前期比増減率

年・期 指数	22年	23年	24年	25年	26年	26年			
						Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
						(1~3月)	(4~6月)	(7~9月)	(10~12月)
生産指数	100.0	94.7	92.6	93.1	98.3	99.3	95.7	100.3	98.1
前年比・前期比(%)	7.3	△ 5.3	△ 2.2	0.5	5.6	4.6	△ 3.6	4.8	△ 2.2
出荷指数	100.0	93.8	92.5	92.3	97.4	97.9	96.7	96.8	98.4
前年比・前期比(%)	7.8	△ 6.2	△ 1.4	△ 0.2	5.5	5.8	△ 1.2	0.1	1.7
在庫指数	103.5	104.1	103.6	100.6	104.1	103.1	103.3	105.4	105.4
前年比・前期比(%)	5.1	0.6	△ 0.5	△ 2.9	3.5	1.5	0.2	2.0	0.0
在庫率指数	100.0	118.7	118.0	112.3	118.1	108.7	117.8	118.2	127.5
前年比・前期比(%)	△ 17.4	18.7	△ 0.6	△ 4.8	5.2	△ 0.4	8.4	0.3	7.9

※暦年指数値は原指数、四半期指数値は季節調整済指数

第2図 生産・在庫の関係と在庫局面(在庫循環図)



各在庫局面の説明

- A** 「在庫調整局面」 ……在庫過剰のため、生産を抑えて在庫を調整する。(景気後退期)
- B** 「意図せざる在庫減局面」 ……需要が回復し始めるが、生産は停滞しており、在庫が減少する。(景気拡大初期)
- C** 「在庫積み増し局面」 ……需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。(景気拡大期)
- D** 「在庫積み上がり局面」 ……供給が需要より多くなると、在庫過剰になり在庫の積み上がりが起きる。(景気後退初期)

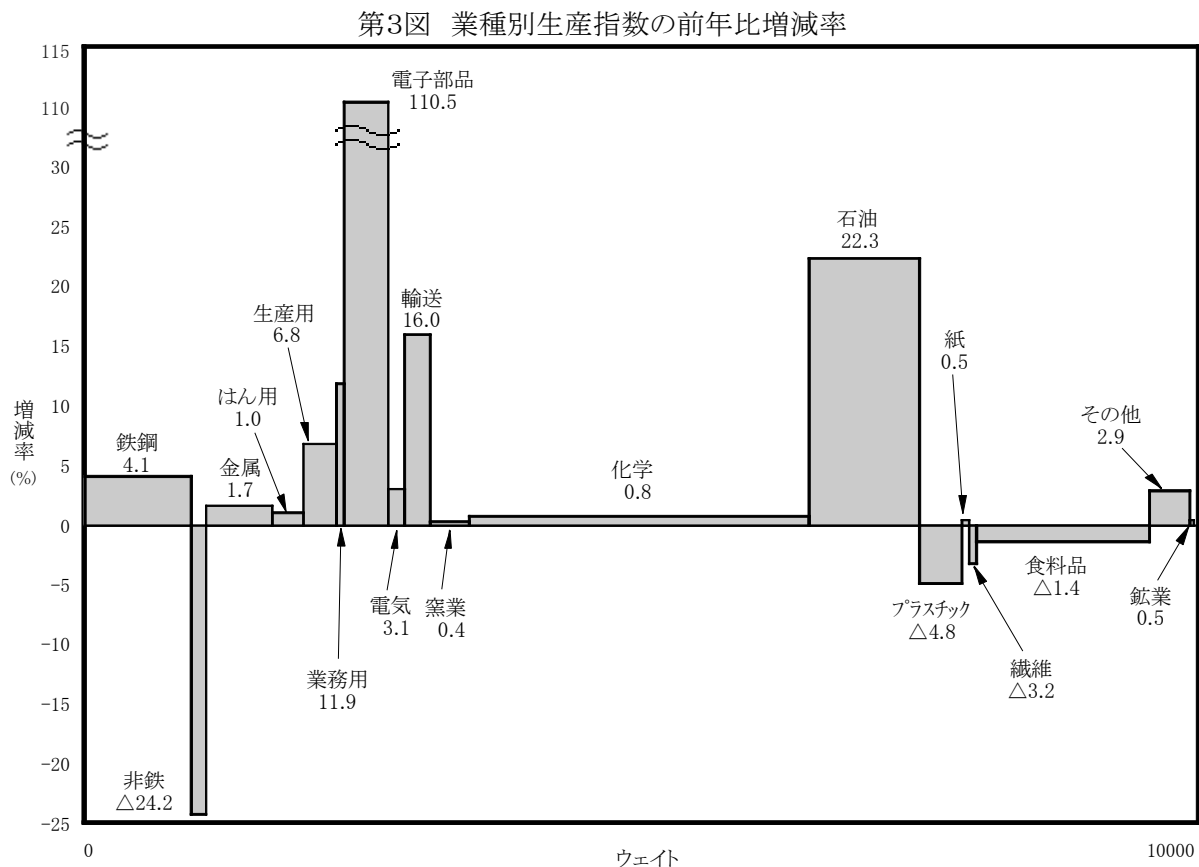
(1) 生産の動向

— 14業種が上昇, 4業種が低下 —

平成26年の生産指数は98.3で前年比5.6%と2年連続の上昇となりました。

業種別にみると、電子部品・デバイス工業（前年比110.5%）、石油・石炭製品工業（同22.3%）、輸送機械工業（同16.0%）等14業種が上昇し、非鉄金属工業（同△24.2%）、プラスチック製品工業（同△4.8%）、繊維工業（同△3.2%）等4業種が低下しました。

（第3図参照）



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の生産指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（■部分）は、各業種の大きさが指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業
 [電気]…電気・情報通信機械工業 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業
 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業
 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

(2) 出荷の動向

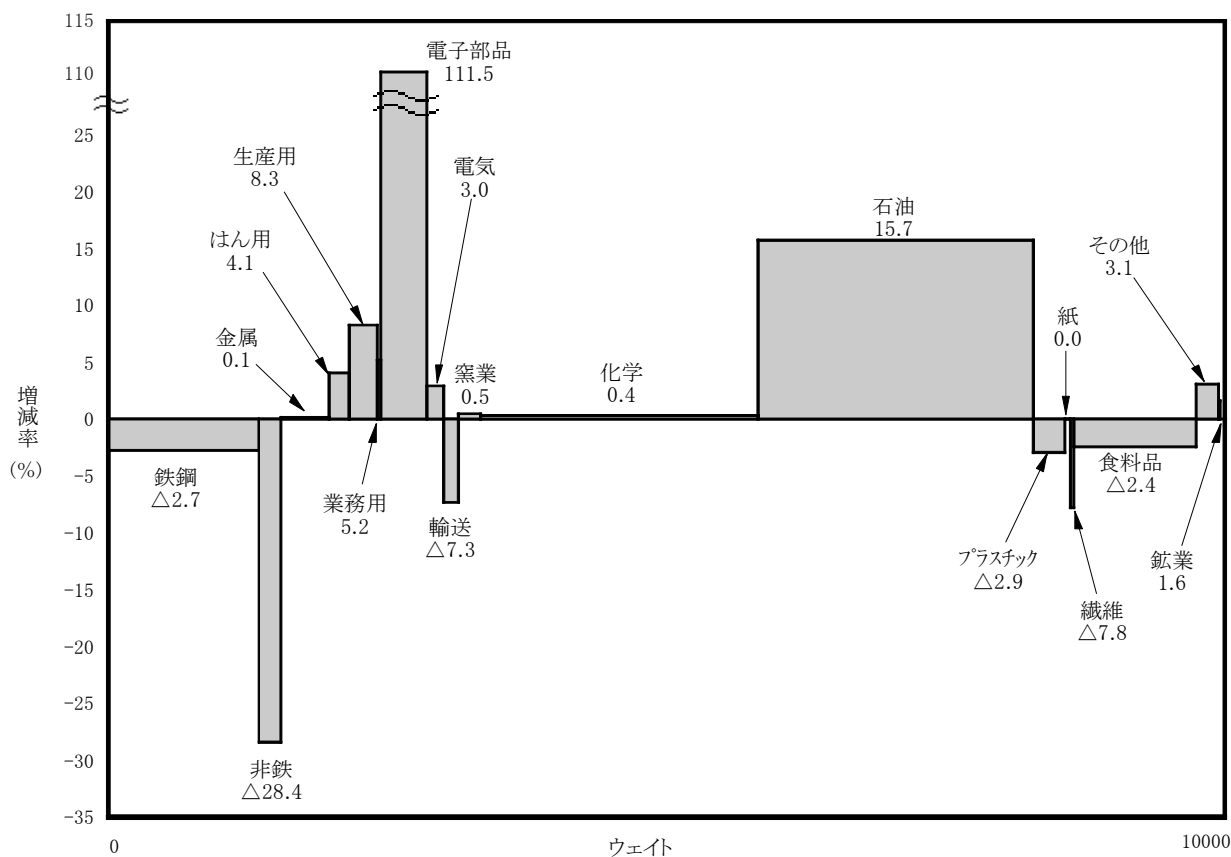
— 11業種が上昇, 6業種が低下 —

平成26年の出荷指数は97.4で前年比5.5%と4年ぶりの上昇となりました。

業種別にみると、電子部品・デバイス工業（前年比111.5%）、石油・石炭製品工業（同15.7%）、生産用機械工業（同8.3%）等11業種が上昇し、非鉄金属工業（同△28.4%）、繊維工業（同△7.8%）、輸送機械工業（同△7.3%）等6業種が低下しました。

（第4図参照）

第4図 業種別出荷指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比，縦軸は各業種の出荷指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は，各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（■部分）は，各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は，次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業
 [電気]…電気・情報通信機械工業 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業
 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業
 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

(3) 在庫の動向

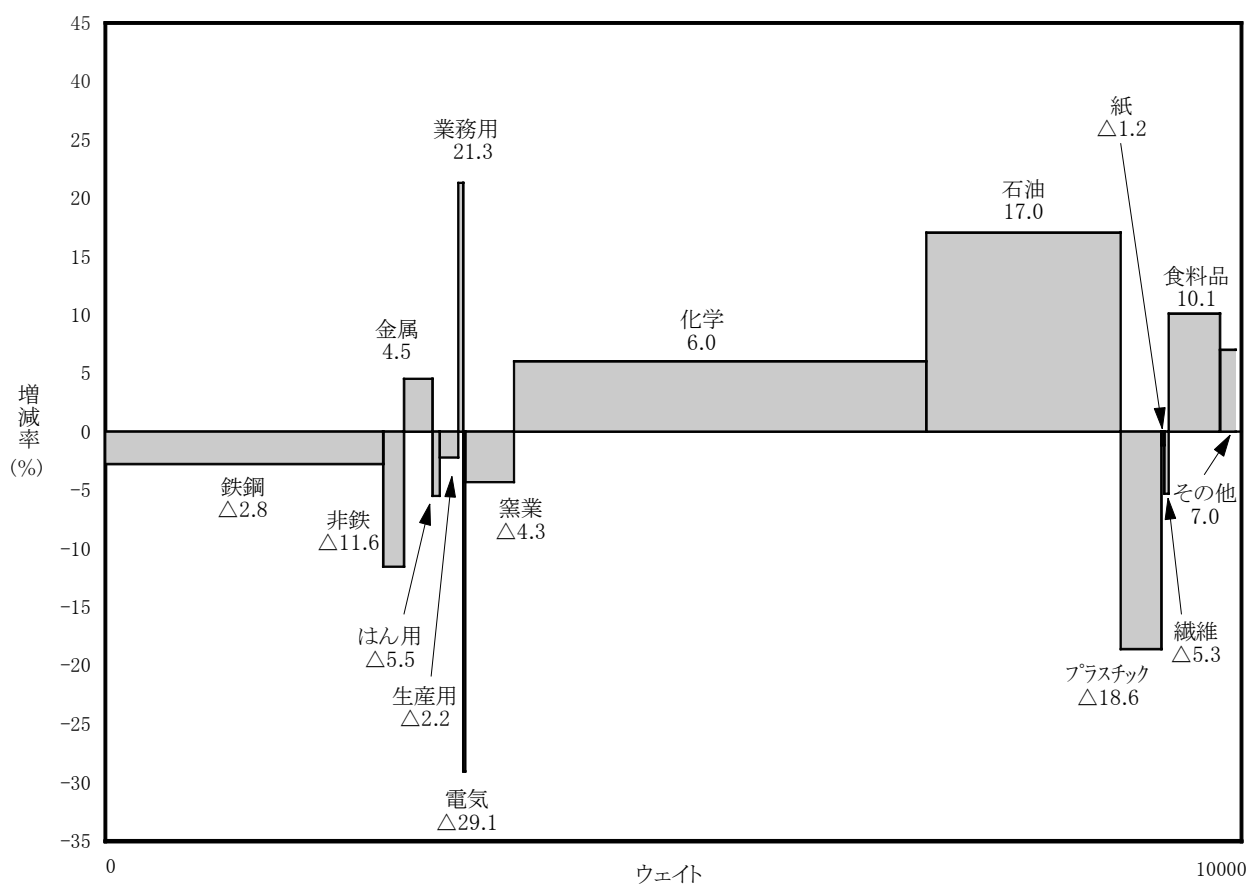
— 6業種が上昇, 9業種が低下 —

平成26年の在庫指数は104.1で前年比3.5%と3年ぶりの上昇となりました。

業種別にみると、業務用機械工業（前年比21.3%）、石油・石炭製品工業（同17.0%）、食料品工業（同10.1%）等6業種が上昇し、電気・情報通信機械工業（同△29.1%）、プラスチック製品工業（同△18.6%）、非鉄金属工業（同△11.6%）等9業種が低下しました。

（第5図参照）

第5図 業種別在庫指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の在庫指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次のとおり略している。
 [鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電気]…電気・情報通信機械工業
 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業
 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業
 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

利 用 上 の 注 意

1 基準時

平成22年（2010年）を基準年としています。

指数値は、平成22年＝100.0とした数量指数で表示し、ウェイトは平成22年の産業構造によって算出しています。

2 用語の表示

「鉱工業生産指数」，「鉱工業生産者出荷指数」，「鉱工業生産者製品在庫指数」，「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」，「出荷指数」，「在庫指数」，「在庫率指数」と略記しています。

また，「1～3月期」，「4～6月期」，「7～9月期」，「10～12月期」をそれぞれ「Ⅰ期」，「Ⅱ期」，「Ⅲ期」，「Ⅳ期」と略記しています。

3 指数値等の表示方法

(1) 指数値は、暦年別及び四半期別に算出し、表示しています。

(2) 暦年指数値及び前年比は、原指数によって算出し、表示しています。

(暦年指数値は、1～12月各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、年末の指数値です。)

(3) 四半期指数値及び前期比は、季節調整済指数によって算出し、表示しています。

(四半期指数値は、期内各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、期末の指数値です。)

(4) 各数値の掲載単位未満は、すべて四捨五入しています。